玉之浦小中学校だより

灯（あかり）

第２０号
令和5年1月31日

1月下旬は、暴風雪警報や10年に1度程度の低温などの言葉が並び、構えて対応に当たりました。2月は逃げ月と言われ、年度末に向けて更にスピード感が増していきそうです。

小学校　一筆入魂！

書き初め大会

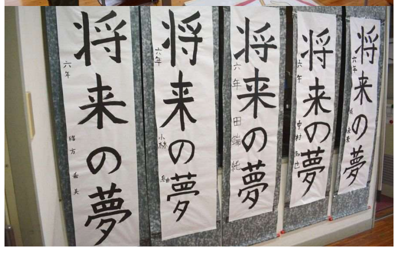
1月11日（水）に小学5・6年生、12日（木）に小学1～4年生が書き初めを行いました。各学年の課題は…

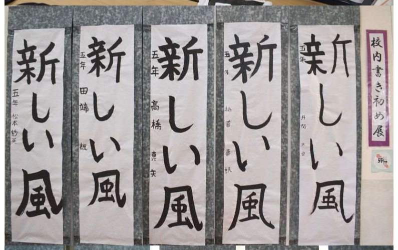
○1年生…「ふじ山」
○2年生…「元気にあいさつ」
○3年生…「友だち」
○4年生…「明るい心」
○5年生…「新しい風」
○6年生…「将来の夢」

1・2年生はフェルトペンと鉛筆の硬筆、3～6年生は条幅紙に毛筆で課題に取り組みました。

1・2年生はフェルトペンで課題を書いて、鉛筆で正月の日記を添えた作品でした。最後は、全員が感想を発表して振り返りを行いました。３～６年生は、墨汁の匂いが漂う中で練習から清書まで取り組みました。条幅紙は文字のバランスが難しいようでしたが、自分なりの一筆入魂の作品が書けていました。書き上げた作品は、職員室前の廊下に展示しました。

1月16日（月）小学校は縄跳び集会・授業参観があり、そのときに、保護者の皆様に子どもたちの作品を見ていただきました。





青少年健全育成協議会

意見発表会

小学6年生　塙 未来さん出場

1月29日（日）標記の発表会が総合福祉保健センターで開催され、市内の小、中学校から11名が意見発表を行いました。玉之浦小中学校では、小と中が隔年で出場することになっており、今年は小学6年生の**塙 未来さん**が代表として「**自然豊かなふるさと五島**」と題して発表しました。

未来さん

未来さんは、東京生まれの北海道育ち…「小学4年生の時に、不安な気持ちを抱えながら、玉之浦にやってきた。しかし、米づくりや梅採りなどにみんなで汗を流すことや、豊かな自然とふれあうことで、五島を第2のふるさとと思えるようになった。これまで自然を守ってきた人々に感謝し、自分も自然を守っていきたい。将来は酪農家になるという夢のために五島を離れても、五島とつながり、その良さを伝えていきたい。」という内容でした。

堂々と意見を発表する未来さん

まずは五島・玉之浦が、未来さんにとってふるさとと呼べる場所になったことが嬉しいですね。堂々とした素晴らしい発表でした。

中体連主催大会への地域スポーツ団体の出場について

これまでは、中体連主催の大会（以降、大会と標記）には中学校部活動からの出場を原則としてきましたが、**「次年度から県中総体・県新人大会や上位の大会への地域スポーツ団体等（クラブチーム等）の出場が認められるようになる」**との報道をお聞きになっていると思います。現時点での情報は少ないのですが、分かっている情報を提供します。

大会にクラブチームが出場するためには、参加条件を満たす必要があり、チームを起ち上げれば、即、出場できる訳ではありません。また五島市では、これから地域スポーツ団体の定義付けや、参加条件等の検討が行われます。その他、活動費や遠征費などの予算措置などの課題も多く、早くても令和6年度からになります。（市中体連からの情報）

将来的には「部活のみ」「クラブのみ」「平日部活＋週末クラブ」など、様々な活動パターンが考えられます。当然、同じ大会で、同じ学校の生徒同士が別チームとして対戦する可能性も含まれます。今後、運営や公平性なども考慮しながら、様々な条件整備がなされて

いくものと思います。

県中体連から、次年度以降の対応を示した「長崎県中学校体育連盟が開催する大会への参加について」というチラシが、小６～中２の児童生徒・保護者向けに配付されました。小５～中３には、「全員部活動」の件と併せて、口頭でも説明を行いました。全県的な情報は、長崎県中学校体育連盟、長崎県スポーツ協会の各ホームページからも得ることができます。

令和５年度からの「全員部活動」について

本校も含め、多くの学校で「全員部活動」という表現が使われるようになって久しくなります。しかし、部活動を取り巻く環境に変化が起き始めたことや、習い事等に注力する選択なども尊重すべきと考え検討いたしました。結論として、部活動の加入そのものに選択肢を持たせるために、令**和５年度から本校では「全員部活動」という表現を使いません。**ただし学校としては、**部活動の意義を説明し、加入をお勧めすることは変わりません。**そして、その子にとって、より有意義な選択となることを願って**最終的な判断は保護者にお任せします。**このことはＰＴＡ理事会の場でお伝えし、新入生説明会でもお伝えしました。また昨日、全家庭にお知らせの文書を発出しました。

第12回 きごさい全国小中学生俳句大会

入選　中学３年生　野澤太志さん

きごさい全国小中学生俳句大会は、季語と歳時記の会・日本学校俳句研究会が主催する大きな俳句大会で、季節の移ろいを感じることを大切にした作品を求めているとのことでした。玉之浦中学校では、一昨年から俳句の取組を行っています。指導に当たる山上京子先生が、長崎新聞はもちろん、応募可能な様々な大会やコンクールに作品を送っています。その中で標記の大会に応募していたところ、中学３年生の野澤太志さんの作品が入選したとの嬉しい連絡が届きました。

風鈴が鳴る海面の乱反射

毎回１万句を超える応募作品があり、今回もかなりの数の中から選ばれたものと思われます。それだけに、太志さんの作品が際立って高い評価を受けたということでしょう。３月に東京で表彰式の予定です。おめでとう！

チーム「とんぼ」ベスト８
ロボコン全国大会

１月28日（土）創造アイデアロボットコンテスト全国中学生大会が開催され、本校から、チーム「とんぼ」が出場しました。五島市大会、長崎県大会、九州大会は、会場で対面での試合でしたが、全国大会については、リモートでの開催になりました。五島市内からは、本校と奥浦中学校が出場するため、奥浦中学校に会場を提供してもらいました。

12月３日(土)の九州大会以降は、学習を最優先にして、２日前から操作練習やロボットの調整を行い、全国大会に臨みました。

（左から）野澤太志さん・中村和志さん・出口子母心さん

出場した基礎部門の予選は、各パート３チームが総当たりして、１チームのみが決勝トーナメントに進出しました。１試合目は埼玉県のチームと対戦し勝利（36秒残してパーフェクトゲーム）、２試合目は福島県のチームに勝利（45秒残してパーフェクトゲーム）。予選２勝で決勝トーナメントに進出しました。８チームで行われた決勝トーナメントの１回戦は福井県のチームとの対戦で、パーフェクトゲームを達成したものの、相手チームが早く、ここで挑戦が終わりました。

全国ベスト８！…取組を始めた頃には予想もしていなかった結果でした。また、九州大会まで一緒に活動したチーム「ＭＡＮＴＩＳ」（川脇颯太さん・緒方真一さん・金丸未來さん）も同じです。ロボコンを通して、物づくりの面白さを感じてくれたものと思います。また中学３年生全員で共通の思い出づくりもできました。これまで応援していただいた皆様に、お礼を申し上げます。

あとがき

●「大寒」も最終盤、暦の上では春が目前。次の七十二候は「東風解凍（はるかぜこおりをとく）」です…とは言っても、２月末までは降雪への注意が必要でしょう。スクールバスの運行・給食の供給・児童生徒や職員の安全等に配慮しながら判断していきます。必要な連絡は、引き続き「連絡メール」で行います。